

## 2005年度 第5回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<確定稿>

開催日時：2005年7月12日(火) 午後7時15分～9時30分  
開催場所：田無総合福祉センター 第3会議室  
出席委員：阿部靖子、飯塚 睦、熊田博喜、坂口和隆、瀧島喜重、安岡厚子、山下恭子  
<以上7名、敬称略、あいうえお順>  
事務局：齊藤地域福祉課長、飯塚主事、今林コーディネーター、平田コーディネーター  
丸木

### 配布資料

- 資料 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告
- 資料 2：コーディネート状況等月次報告
- 資料 3：西東京ボランティア・市民活動センター予定表(7月)
- 資料 4：災害時のシステムづくり専門委員会委員名簿
- 資料 5：第2回災害時のシステムづくり専門委員会会議録<確定稿>
- 資料 6：平常時における西東京ボランティア・市民活動センターの取り組み  
(ワークショップのまとめ)
- 資料 7：西東京ボランティア・市民活動センター事業に関する個人情報取扱業務概要説明書  
(考え方と具体的な取扱内容)
- 資料 8：市民活動団体を対象とした研修会等に関するアンケート集計結果
- 資料 9：2005年度第4回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<未定稿>
- 資料 10：2006年度西東京ボランティア・市民活動センター事業(案)

委員長：それでは、第5回運営委員会を始めます。

時間的なことの確認だが、本日の議題になっている「2006年度の事業(案)」の審議は、今日だけの議論になるか。

事務局：市補助金の資料作成の都合から、10月20日頃までに結論を出していただきたい。

委員長：では、次第にしたがって進めていきたい。

## 1. 報 告 事 項

### (1). 西東京ボランティア・市民活動センター業務報告について

事務局職員より、資料1から3に基づき6月期の西東京ボランティア・市民活動センターの業務および7月期の事業予定について報告の後、質疑がある。

委員長：シチズン時計(株)のオープンカレッジの参加対象者は社員だけだったのか。

事務局：参加者は約15名で、社員だけだった。

委員：管理職会議の議題に「緊急一時保護の受託について」とあるが、この緊急一時保護とは、西東京市が行っている障がい者の緊急一時保護のことか。

事務局：そのとおり。西東京市が行っている障がい者の緊急一時保護の受け入れ先になることを管理職会議で検討した。

## (2).災害時の対応のシステムづくりについて

事務局職員より、資料4、5、6に基づき、6月30日に開催された「災害時のシステムづくり専門委員会」の報告があった後、意見交換がある。

委員長：資料を見ると、平常時と災害時の対応を考えているようだが、この2本立てでいくのか。

事務局：現段階では、そのような流れになっている。

委員長：委員の変更があるようだが、報告してほしい。

事務局：辞退した委員がいることから、災害時のシステムづくり専門委員会より委員の補充を求められていたが、専門委員会の意向として高齢者の介護に携わる人あるいはまちづくりに携わる人を委員にしてほしいということから、その2つの条件を満たす人を委員にお願いした。

## (3).西東京ボランティア・市民活動センターにおける個人情報保護に関する方針について

資料7に基づき、事務局職員より個人情報保護に関する方針について報告があった後、協議が行われる。

委員長：資料7の個人情報取扱業務概要説明書はすでに発効されているものなのか。今日の時点では（案）とし、この場で協議し、決定するものではないのか。

事務局：社会福祉協議会の個人情報保護規則が6月30日施行となっているので、それに付随するものとして発効されていると理解している。

委員長：運営委員会での審議を経て発効させるべきである。

事務局：その都度、状況にあわせて変更をしていくものであることから、審議事項としていただきたい。

委員：取扱業務概要説明書を見ると、保険の種類だけが目立つが、このままでよいか。

事務局：まずは、何が個人情報であるかを特定することが必要であることから、あるいは当センターが個人情報として扱うものを市民にわかりやすく示すことが必要であると考えるので、このままでいきたい。

委員長：個人情報の利用目的欄などに「学生の実習や内部研修」という項目が加わっているが、これは前回の運営委員会での指摘事項だったか。また、このことを盛り込むのであれば、実習生として来た学生が情報を他に漏らさないための工夫が必要なのではないか。

事務局：「学生の実習や内部研修」の項目は、総務課との調整の結果加えたものである。

委員長：個人情報を他に漏らさない工夫の一つとして、学生との間で誓約書を取り交わすなどが考えられる。また、学生以外で企業からのインターン受け入れの場合も検討する必要がある。

委員：学生の実習生の場合、実習生を受け入れる元である社会福祉協議会と大学（学校）との関係の中で誓約書を取り交わすことも必要になるのではないか。

委員：誓約書はすでに作成してあるのか。

事務局：総務課と協議して今後作成を検討していく。

上記の意見をもとに修正をし、次回運営委員会で再度検討することとなる。

## (4).市民活動団体を対象とした研修会等に関するアンケート集計結果について

事務局職員より資料8に基づき、実施したアンケートの結果報告があった後、意見交換が行われる。

委員：問5の回答での「会員」と「ボランティア」の違いは何か。「会員」と「ボランティア」は同じ意味ではないのか。

事務局：NPO法人などでは、会員とは別に、事業を行う際にボランティアの協力を得ている団体もある。したがって、「会員」と「ボランティア」の位置づけは異なる。

委員長：アンケートの結果を見ると、広報、自主財源の作り方を望む人が多い。人が集まるチラシの作り方などの講座開催がよいのではないか。

事務局：2004年度に同じテーマで講座を開催したが、参加者はいなかった。

委員：アンケートの結果から、会員拡大の方法をテーマに講座を行うということであったが、具体的に説明してほしい。

事務局：まだ具体的には考えていないので、意見をいただきたいと考えているが、会員拡大の方法だけをテーマにするのではなく、その周辺、たとえば会員拡大を図るためにはその団体の目的をきちんと市民に知ってもらうことが大切であるし、効果的なPRをすることも必要になってくるので、そのようなことも盛り込みながら講座を開催することができればと考えている。

委員長：自主財源を確保するために会費を納めてくれる会員を増やす方法なのか、団体の活動目的を理解して活動をしてくれる会員を増やす方法なのか、焦点を絞ってはどうか。

委員：「研修を受けたらこういうふうに事業計画を立てることができるようになった」というような研修の内容にしたい。より具体的な内容にし、抽象論で終わらないような講座であるべきだと思う。

上記の意見およびアンケートの集計結果をふまえて、2005年度の市民活動団体実務研修を事務局で企画、実施することとなる。

## 2. 審 議 事 項

### (1). 2005年度第4回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録について

修正箇所なく、2005年度第4回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<未定稿>は、確定稿として承認される。

### (2). 2006年度西東京ボランティア・市民活動センター事業について

事務局職員より、資料10に基づき、2006年度の事業(案)について説明があり、提案される。後に審議が行われる。

委員長：事務局案を作成するにあたって、職員間でどのように進めてきたのか。

事務局：係会議を開催し、今あるニーズを互いに出し合い、それを解決するためにどのような事業が必要かを話し合った。

委員：西東京市教育委員会との間で、市内にある生涯学習団体についての情報の共有はあるのか。

事務局：このことについてだけで情報の共有をしていることはないが、個別に市民から相談があった時に、必要があるごとに教育委員会から情報を得たりはしている。

委員：生涯学習分野とのつながりは必要だと思うので、市教育委員会とは連携していくべきだと思う。

委員：重点取り組み事項が出ているが、この事項についての今までの取り組み状況はどのようになっているのか。

事務局：重点取り組み事項のほとんどが今までは実施をしていなかったもので、2006年度に新たに取り組みたいと考えているものである。

委員：紙媒体での広報活動の有効性はどののだろうか。

委員長：投げて終わりという感じがする。様々な広報の媒体の特性を整理して行うことが必要だと思う。ボランティア・市民活動センターに関わる人の多くが年配の方という現状であれば、紙媒体に頼ってもよいのではないかとはいえる。

委員：FM西東京を活用するのも方法の一つだと思う。出前ボランティア・市民活動センターを行ってはどうか。たとえば、駅などでチラシを配るだけではなく、相談活動も同時に行うなどすれば目立つのではないと思う。また、ボランティア活動をするにはどうしたらよいかということがわからない人達へアプローチすることができるのではないだろうか。

委員長：そのようなことを行う際には、ボランティアを巻き込んで行うことが必要だと思う。PRを

最重点課題とすることはよいと思う。西東京ボランティア・市民活動センターの態勢が整い、どのように市民へ受け入れてもらいたいのか、どのように西東京ボランティア・市民活動センターとしてのブランド構築をしていくのが問題だと思う。ボランティア・市民活動センターという人が多く出入りして壁面にはいろいろな活動のチラシ、ポスターが貼ってあるというイメージがある。人が集まるということをブランド化する必要がある。また、メールニュースも行うべき。職員が営業活動をし、人脈をつくり、データ上ではなく生の情報をつなげていくことが大切だと思う。

委員：町の中でボランティア・市民活動センターの存在が目立つことが大切だと思う。ボランティア・市民活動センターの看板や何らかの表示が町のいろいろなところにあるとよい。

委員長：露出度が大事だと思う。

委員：どこまでやるかということが問題で、本気でやる必要があるではないか。ボランティア・市民活動センターをこうしたいというイメージをもつことを最初にやるべきではないか。

委員：ボランティア活動や市民活動に興味がある人とない人との差が極端なので、興味のない人をどうやって発掘していくかを考えないといけないのではないだろうか。

委員：目指すところを明確に決めておく必要があると思う。運営委員としてどこまでやれるかどうか問題だと思う。

委員長：そのとおりで、運営委員としてやるべきことも考える必要がある。市民まつりや地域の夏祭りへ参加して、名前を売ることもやってよいのではないだろうか。

委員：せっかくキャラクターを作ったのであれば、そのキャラクターに名前があったほうがよい。

委員長：物品販売は、ブランドが必要。話題性がないと売れない。

委員：有名人に協力してもらうことも一つの方法ではないか。

委員長：リサイクル品のバザーを行ってはどうか。

事務局：資料には掲載していないが、強化プランに盛り込まれている「まなびの場と相互交流の場の提供」や「職員体制の充実」を実現するための第一歩として、実習生を年間を通して受け入れていきたい。

委員：子ども点字教室だが、子どもだけを集めて行う必要があるのか。

事務局：毎年、親も一緒に参加したいという声がある。

委員：シニアボランティアスクールでは、地域のニーズを積極的にシニア層へPRをして、活動に結びつけていかなければならないのではないか。

委員長：2007年問題についてボランティア・市民活動センター発で世論を喚起していくことが必要なのではないか。

委員：そのようなことはぜひ、ボランティア・市民活動センターが積極的に取り組んでほしい。

委員長：ニューカマー、DV、不登校の課題などのテーマ設定が必要だと思う。タイムリーなテーマに取り組む必要がある。小回りのきく事業形成を考える必要がある。

委員：ごく当たり前のボランティア活動から人を集めてボランティア活動をひろめていくこともできる。たとえば空き缶ひろいなどが考えられる。

委員：何か飛び出たものがほしい。体験ボランティアを中学校が単独で行っているが、学校の先生はボランティア活動についてよく理解していないケースがあるので、そのコーディネートボランティア・市民活動センターが行ったほうがよいと思う。

以上、2006年度事業計画(案)を協議し、次回運営委員会にて継続して協議することとなる。

以上をもって、2005年度第5回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会の協議を終了し、散会する。